Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Efficacy and safety of preoperative DCF therapy for resectable squamous cell carcinoma of the esophagus

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 白井, 雄史 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032145

様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	乙 第 2929 号	氏　　名	白井　雄史
審　査　委　員　会	主　査　教　授	徳重　克年	

論文審査の要旨（400 字以内）

食道癌術前化学療法において Docetaxel(DOC) / Cisplatin(CDDP) / 5-fluorouracil(5FU) 療法（DCF 療法）と術前 Cisplatin(CDDP) / 5-fluorouracil(5FU)療法（FP 療法）を比較検討した。cStage 2 / 3 進行胸部食道癌に対し、2010 年より術前 DCF 療法を行った 27 症例と、2000 年～2009 年まで術前 FP (CDDP / 5-FU)療法を施行した 22 例を、比検討した。DCF 群では臨床奏効率 62.9 %、組織学的奏効率 70.4％であった。有害事象は Grade3 以上の好中球低下は 22 例（81.4％）、発熱性好中球減少 5 例（18.5％）であった。術後合併症は縫合不全 2 例、腸閉塞 1 例、心肺合併症 3 例、肝障害 1 例であった。FP 群では臨床奏効率は 63.6%、組織学的奏効率 68.2％であった。有害事象では Grade3 以上の好中球低下 5 例(22.7％)、発熱性好中球減少は認なかった。術後合併症は縫合不全 1 例、肺合併症 6 例であった。DCF 療法では有意に好中球減少が生じてはいるものの薬剤投与により予防可能と考えられた。また周術期合併症には差は認めていない。厳重な管理のもとに行えば術前化学療法の一つとして許容できるものとして考えられた。

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）[学校教育法学位規則第 8 条]